

千曲市子ども読書活動推進計画【概要】

千曲市子ども読書活動推進計画とは

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年）に基づき策定する、千曲市の子どもの読書活動を推進する計画です。

第三次計画における取組の成果や課題を振り返り、社会情勢等を踏まえた子どもの読書活動を推進するため、「第四次千曲市子ども読書活動推進計画」（令和7年～11年度）を策定します。

基本方針

- （１）家庭、地域、学校等における読書活動の推進
- （２）子どもの成長に即した読書活動の推進
- （３）子どもが進んで読書をしようとする読書環境の整備・充実
- （４）家庭、地域、学校等が連携した読書活動の取組の推進

第三次千曲市子ども読書活動推進計画の実績と課題

第三次千曲市子ども読書活動推進計画では、第二次計画期間中の小学校、中学校、高等学校の学校図書館における読書実績値（貸出冊数）から目標値を定めました。

第三次計画における数値目標

○小学校（実績に5％を加算）

第三次計画数値目標

1人当たり131冊

○中学校（実績に15％を加算）

第三次計画数値目標

1人当たり26冊

○高校（実績に30％を加算）

第三次計画数値目標

1人当たり9冊

第三次計画目標値に対する実績

○小学校

令和元年～5年実績

1人当たり107冊

○中学校

令和元年～5年実績値

1人当たり18冊

○高校

令和元年～5年実績値

1人当たり5冊

目標値に達せず

生活の多様化、多忙化、スマートフォンや携帯ゲーム機器の普及に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大による臨時休校、学校図書館の利用制限が読書活動に影響を与えた可能性が考えられる。

実績や取組状況を踏まえた「第四次計画の策定」

○家庭、地域、学校などの関係機関が連携して、子どもが読書に親しむことができる環境の充実

- ・家庭：家族が関わりをもって読書活動を促進できるよう啓発活動の実施や、子どもと保護者がいっしょに読書に親しむ機会の提供。
- ・地域：関係機関の連携による読書環境の整備、読書ボランティアを活用した読み聞かせ活動等の推進。
- ・学校：学校図書館の充実、特性に応じた読書指導、読書ボランティアを活用した読み聞かせ活動など、継続的な読書活動の推進。

○読書バリアフリー法に基づく読書環境整備の推進

- ・従来の紙の本に電子書籍を加えることで、必要な本を必要な時に活用できる読書活動を推進。
- ・紙の本を読むことが困難な子どもに、読み上げや文字拡大機能が付いた電子書籍を、読書のひとつの方法として活用。

アンケート調査による、取組状況の分析

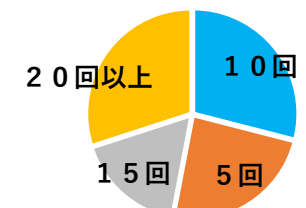
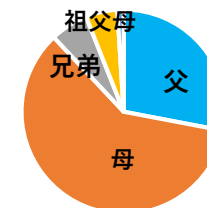
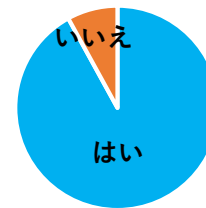
1. 家庭における取組

（１）ブックスタート（7か月児への絵本贈呈）事業の対象家庭の取組

○読み聞かせをしていますか。

○主にどなたが行っていますか。

○一か月にどのくらい行っていますか

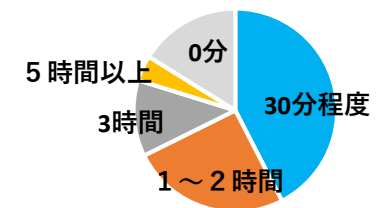
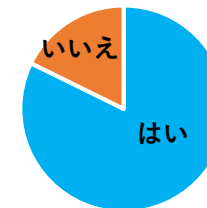


（２）セカンドブック（小学1年生への図書贈呈）事業の対象家庭の取組

○贈呈本を読んでいますか。

○子どもは一人で読書をしますか。

○週にどれくらい読書をしますか。



（３）地域における取組

- ・子育て支援センター：読み聞かせや年齢に合わせた本の紹介を積極的に行っている。
- ・児童館・児童センター：個々の特性に応じた読書環境をつくる工夫を行っている。
- ・公民館：読み聞かせと音楽を組み合わせた企画、放課後教室での読み聞かせなど、子どもの読書活動を推進する取組や場の提供している。
- ・市立図書館：読書に関わる事業の実施、関係機関との連携を推進している。

（４）保育園・幼稚園における取組

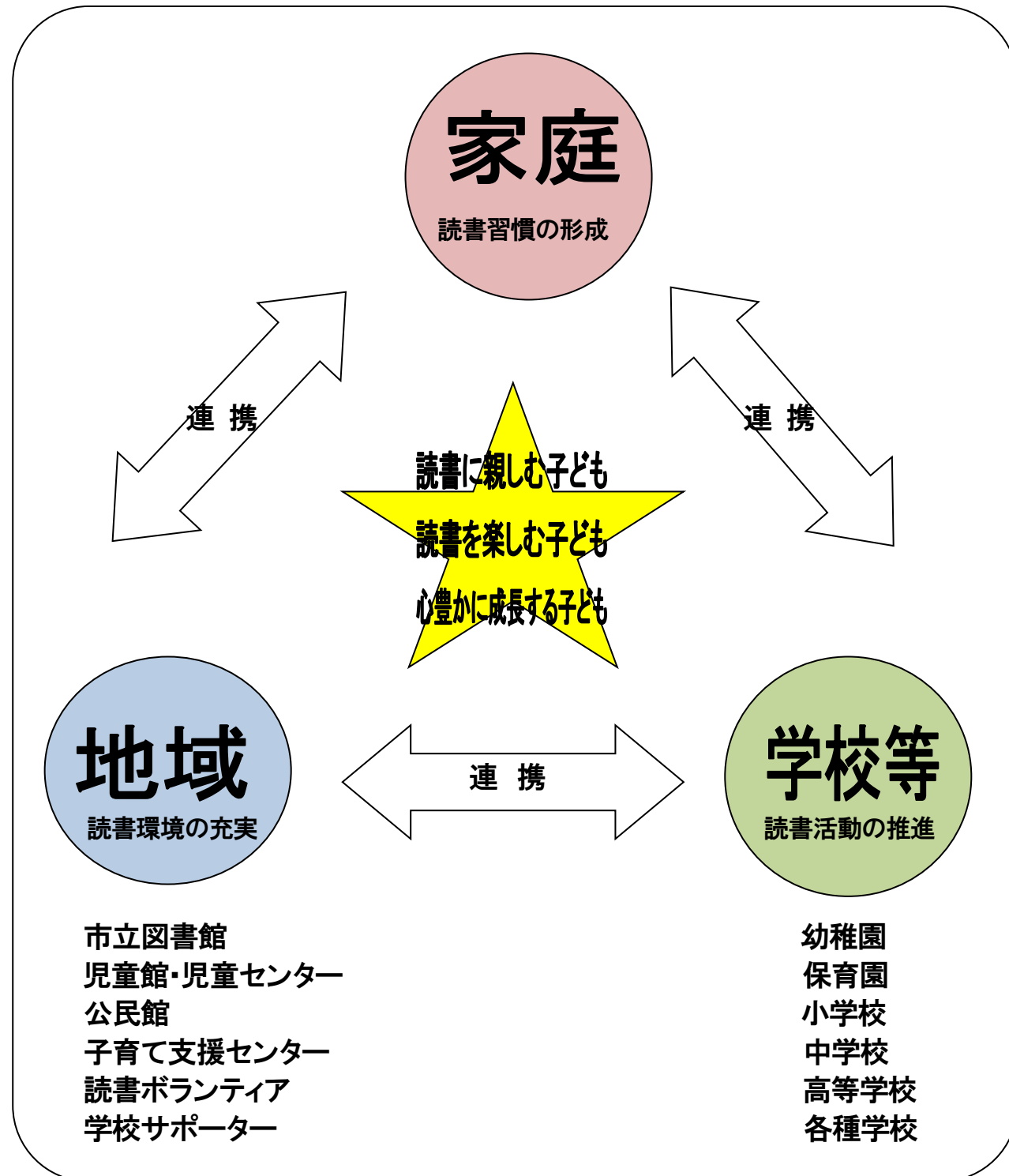
- ・毎日の園生活の中で、読み聞かせのを実施している。
- ・年齢や特性に応じた図書を充実させ貸出を行うなど、家庭での読書活動を推進している。
- ・家庭によっては保護者の関心が薄く、貸し出した本が開かないまま返却されることがある。

（５）学校における取組

- ・学校図書館を活用する授業を週1回程度設け、課題を解決するため本を使うことを学んでいる。
- ・学校図書館では、新着や季節、テーマに沿った本を設置し、多様な分野へ関心が向くよう努めたり、学校司書が読書相談に応じるなど、工夫を凝らしている。
- ・中学校や高校では1人1台端末により、読書や授業において電子書籍を活用している学校がある。小学校も、端末と図書館を併用した授業を展開している。
- ・個々の特性に応じた読書に関する指導を行っている。

大曲市子ども読書活動推進計画

豊かな感性と想像力を育む



子ども読書活動推進の取組【施策の方向】

- 家庭における読書活動の推進**
幼い時期から親子で本に触れ、読書の楽しさを体験することで読書への興味と意欲を引き出す取組を行い、乳幼児から高校生まで、家庭での継続した読書活動を推進する。
- 地域における読書活動の推進**
子どもたちが読書に親しみ、読書の楽しさに触れることができるよう、各施設や読書ボランティア、各種団体等が連携し、継続して読書環境の充実や読書活動を推進する。
- 学校等における読書活動の推進**
 - 幼稚園・保育園における取組
読書の楽しさに触れ、自ら本に親しむ子どもを育成するため、幼児期から継続して読み聞かせを行う。園内の本の整備・充実を図るとともに、市立図書館など各施設の本を有効活用し、読書ボランティアと連携して読書活動を推進する。
 - 学校における取組
読書に親しみ、自ら読書を行う子どもを育てるため、読書時間の確保や子どもの成長に応じた読書指導、学校図書館の環境整備、電子書籍の活用等を行い、学校全体で読書活動に取り組む。

子ども読書活動推進体制の整備

市全体で、子どもたちの読書活動を効果的に推進していくために、家庭、地域、各施設や団体などが目標を共有し、目標達成のために連携・協力をさらに強化して取り組む。

また、子どもの読書活動の重要性について、関係者はもとより、市民全体の意識向上を図る。併せて各施設が所蔵する本の有効活用を図る。

第1次計画（H22～H26）における取組

- ・図書の充実など読書環境整備
- ・各施設での読み聞かせ活動の充実
- ・家庭での読み聞かせ支援
- ・家庭への読書活動重要性の啓発
- ・読み聞かせボランティアの育成
- ・地域人材の活用
- ・関係機関の連携・協力強化 など

第2次計画（H27～R1）における取組

- ・第1次計画の取組を継続
- ・セカンドブック事業開始（29年度）

第3次計画（R2～R6）における取組

- ・第1次、第2次計画の取組を継続
- ・子どもの年間読書冊数について数値目標を設定
- ・図書館関係職員等の資質向上